

原子力規制庁記者ブリーフィング

- 日時：令和元年6月25日（火）14:30～
- 場所：原子力規制委員会庁舎 記者会見室
- 対応：大熊長官官房総務課長

<本日の報告事項>

○司会 それでは、定刻になりましたので、ただいまから原子力規制庁の定例ブリーフィングを始めます。

○大熊総務課長 では、お手元の広報日程に基づいて、私から補足説明をさせていただきます。

まず、1. (1) 第14回の原子力規制委員会が、明日6月26日水曜日10時半から開催される予定でございます。議題は5件予定されております。

まず、議題1「関西電力株式会社高浜発電所1号炉、2号炉、3号炉及び4号炉の発電用原子炉設置変更許可申請書並びに日本原子力発電株式会社東海第二発電所の発電用原子炉設置変更許可申請書に関する審査の結果の案のとりまとめについて（案）-地震時の燃料被覆材の放射性物質の閉じ込め機能の維持に係る措置-」。

こちらは高浜発電所及び東海第二発電所のそれぞれにつきまして、いずれもバックフィット関係、記載されておりますように、地震時の燃料被覆材の閉じ込め機能に関するものでございますが、これに関して提出のございました設置変更許可申請に対しまして、審査の結果の案について審議を行い、関係機関、原子力委員会及び経済産業大臣に意見聴取を行うことについて、決定をいただくというものでございます。

次に、議題2「国立研究開発法人日本原子力研究開発機構核燃料サイクル工学研究所プルトニウム燃料第二開発室の管理区域内における汚染に係る報告に対する評価及び今後の対応について（案）」。こちらは本年1月に発生いたしました、核サ研の管理区域内の汚染の実証に係る汚染の指標に関しまして、その報告書案について、5月29日の委員会においていただいた御指摘を受けまして、修正を加えた報告書の案をお諮りし、審議をいただくというものでございます。

次に、議題3「特定重大事故等対処施設の設置に伴う保安規定変更認可における審査の進め方について（案）」。こちらは先日6月12日の委員会におきまして、委員長から、特重施設の設置に伴う保安規定の変更認可に当たって、特重施設の活用を含む重大事故対策のあり方について、検討を行うべきだという発言・御指摘がございました。これを受けまして、今後の審査の方針と進め方について案をお示しして、審議をいただくというものでございます。

次に、議題4「東京電力福島第一原子力発電所の監視・評価に係る検討体制の見直し(案)

について」。こちらはいわゆる1F検討会、特定原子力施設監視・評価検討会に外部専門家を追加することについて、委員会にお諮りをするというものでございます。

次に、議題5「製造業者による不適切行為への原子力事業者の対応状況について」。こちらは、一昨年、神戸製鋼所等の製品に関して不適切行為があったということが公表されて以来、類似の行為が断続的に確認されてきておりますが、こうした不適切な行為につきまして、これまでに得られている情報を整理してまとめて、委員会に御報告をするというものでございます。

次に、広報日程の2ページ目下段でございます。

6月27日木曜日、(6)第736回の審査会合が午後に開催される予定でございます。こちらは審査の対象として1件、中国電力・島根発電所2号炉についての許可に係る審査が予定されております。内容は、耐津波設計方針についてのコメント回答及び雨や竜巻などの自然現象に係る対策についてのコメント回答が予定されてございます。

次に、3ページ目、こちらも下段になります。

6月28日金曜日、(10)第737回の審査会合が、こちらも午後に開催される予定でございます。議題は、記載されております2件が予定されております。

まず、1件目は、中国電力・島根発電所2号炉の津波評価についてということで、こちらは前回の審査会合を受けまして、放水路に関する津波評価に関しまして、コメント回答が行われる予定でございます。

次に、議題2といたしまして、北海道電力・泊発電所3号炉の敷地の地質・地質構造についての審査が予定されております。こちらは追加調査について、前回、説明を聞き、コメントを行っております。その回答ということで、追加調査のための事前調査についての説明をお聞きするという予定でございます。

次に、広報日程の4ページ目でございます。上段になります。

7月1日月曜日、(12)第15回の検査制度の見直しに関する検討チームの会合が午前中に開催される予定でございます。こちらの議題は、記載されておりますように、5件が予定されております。

まず、意思決定プロセスの考え方、こちらは重要度評価及び規制対応評価に関する意思決定についての考え方について議論を行い、次に、議題2として、安全重要度評価における定性的評価の手法について、議論が行われる予定でございます。

また、3番目といたしまして、記録や文書類の作成や公開などのあり方について、また、議題4として、試運用フェーズ2の実施状況について、現状の確認が行われるという予定でございます。

また、5番目の議題として、検査等に係る手数料の設定の検討状況ということで、具体的な内容について議論が行われるという予定でございます。

次に、その下、(13)第1回クリアランスに関する審査会合が同日7月1日の午前中に開催される予定でございます。こちらの審査会合でございますが、クリアランスについて

は、これまで面談などによりまして審査を行ってまいりましたが、全体に公開を行っていくという方針が示されていることを受けまして、今回から審査会合という形で審査を行うものでございます。

議題は、記載されておりますように、敦賀発電所1号炉において用いた資材等についての放射能濃度の測定及び評価方法についての認可申請についての審査が予定されております。こちらは審査が継続している途中のものでございますが、引き続き技術的課題についての議論・審査が行われる予定でございます。

次に、その下、(14) 第287回の核燃料施設等に関する審査会合が同日の午後に開催される予定でございます。議題は、記載されておりますように、原子力研究開発機構の試験研究用等原子炉施設（常陽）、こちらについての許可についての審査の予定でございます。これまでの審査に引き続きまして、今回は設計基準事故についての対策について、審査が行われる予定でございます。

次に、その下、(15) 第5回の核燃料施設等の廃止措置計画に関する審査会合が夕刻に開催される予定でございます。

議題は、東京大学原子炉についての廃止措置計画の変更承認の申請についての審査が予定されております。こちらは前回に引き続いての審査でございまして、コメント回答が行われる予定でございます。

また、議題2として、同じく東京大学原子炉についての保安規定の変更承認申請についての審査が行われる予定です。こちらは6月に申請があったもので、廃止措置計画の内容、進行に伴う保安規定の変更に係る申請でございまして、これについての審査が行われる予定でございます。

私からの御説明は以上です。

<質疑応答>

○司会 それでは、皆様からの質問をお受けします。いつものとおり、所属と名前をおっしゃってから質問のほうをお願いいたします。

それでは、質問のある方は手を挙げてください。ワタナベさん。

○記者 時事通信のワタナベと申します。よろしく願いいたします。

あしたの原子力規制委員会の関係で伺いたいのですけれども、議題4の福島第一原発の監視・評価検討体制の見直し案ということですが、外部専門家の追加についてということでしたけれども、この外部専門家というのは、具体的にどのような専門家を予定されているのか、分かる範囲で教えてください。

○大熊総務課長 ちょっと説明が不足しており、失礼いたしました。

こちらは、今年に入って初めのころの委員会において、廃棄物の管理に関する検討も、この監視・評価検討会で実施することに決まったということで方針が決定されております。これに対応するために、その審議に関する専門家として、廃棄物問題に関する専門

家と、それから、そうした施設が立地する地区の有識者、こうした方々を専門家に追加をするということについて、案をお諮りするということでございます。

○記者 分かりました。

明日の段階では、具体的な専門家の人を挙げて、こういう人を追加するがよろしいかというような、そういう流れになるのでしょうか。

○大熊総務課長 はい。お名前も含めてお示しをする予定でございます。

○記者 分かりました。ありがとうございます。

○司会 ほか、ございますでしょうか。シゲタさん。

○記者 NHK、シゲタです。

あすの委員会の件で議題5なのですけれども、このタイミングで一連のコベルコなどの問題をまた見る理由について、確認させてください。

○大熊総務課長 タイミングについては、特に今という理由はございません。申し上げたように、断続的にいろいろな事象、不適切な行為が出てきたということで、それを一旦整理しておこうということでございます。特に今ということに理由があるわけではございません。

○記者 あと、これまで確認してきた中では、大体安全性に影響はないというような類いの事業者の発表が相次いでいたと思うのですけれども、まとめられた上で、今分かっている範囲で構わないのですけれども、問題があるようなケースとか、水平展開しなければいけないケースとか、こういったものは報告される御予定はあるのでしょうか。

○大熊総務課長 基本的には、今お話がございましたように、事業者のほうで確認を行ってきていると。その安全性、必要な性能について確認を行っており、また、それが確認できないものについては、交換が行われてきているということだと承知しています。その全体の状況を整理して報告するというところで、特に何か新しい問題がそこに含まれているというふうには理解しておりません。

○記者 ありがとうございます。

○司会 それでは、イワマさん。

○記者 毎日新聞のイワマです。

明日の議題3についてなのですけれども、前回の委員会の中でも話題として出てきた内容ですけれども、改めてお伺いしますが、今後の保安規定変更認可における審査の進め方というのが、なぜこの特重施設の設置に伴う中で、問題として、案として、どういう部分を案としてまとめなければいけないのかというのを改めてお聞きしてもよろしいでしょうか。

○大熊総務課長 こちらは6月12日だったと思いますが、委員会で委員長から指摘・指示があって、整理をして、検討をしているものでございます。その際、委員長から指示があ

ったとおりでございますけれども、いわゆる特重施設というのが、テロ対策だけではなくて、重大事故対策において重要な役割を果たし得るものだ。これをどのように重大事故対策で使っていくのかというのを、方法、順番も含めて検討していく必要があると。全く従来の重大事故対策の手順とか施設と切り離して考えるべきではないのかと。ちょっと正確ではないかもしれませんが、そうした趣旨の御指示であったらと思います。

そうした趣旨を踏まえて、今後、特重施設ができた後の重大事故対策について、保安規定上でどのように位置づけられていくべきかということについて、検討していく必要があるということで、今回、議論をいただくものです。今回、具体的な手順とかを明確に決定するというのではなくて、審査における考え方ですとか、審査の進め方について、基本的な考え方や手順を議論いただくということを予定しております。

○記者 ありがとうございます。

○司会 ほか、ございますか。ヨシノさん。

○記者 テレビ朝日、ヨシノです。

28日の地震・津波のやつですけれども、北海道・泊発電所3号炉の地質構造について、これは要するに、先ほどおっしゃっていましたが、追加調査を行うことには決まっているのですけれども、さらに、それについての事前調査について説明をしていただくために、わざわざ北海道電力に来ていただくということですか。

○大熊総務課長 こちらは、前回、本件についての審査会合で、追加調査の方針について説明をお聞きして、審査を行ったと承知しています。その際に、追加調査を始める前に、どういった追加調査をどこで行うのかについて、具体的にはボーリングを行ってから実際にトレンチとかを掘るといったようなイメージだと思いますが、その事前調査を行ってから追加調査をしっかりとやる必要があるということで、その事前調査についても、その説明をお聞きしたいということが話題になっていたというふうに承知しています。その流れの中で、事前調査について、今回、御説明を聞くということでございます。

○記者 これも1時間ぐらいで終わるのですかね。

○大熊総務課長 ちょっと所要時間は、具体的には、済みません。

○記者 いや、前回もこの説明、1時間ぐらいで切替わった。次の業者へ入れ替えというのがあったのですけれども、多分、北海道からもわざわざいらっしゃる業者さん、メンバーの方もいらっしゃると思うのですけれども、わざわざ、これこそヒアリングとか、そういうこと、あるいは追加でこういう調査をやりますというような資料をさっと出せばいい類いの話なのではないかと。これでまた1時間で終わってしまって、遠路はるばるいらっしゃるような方もいるわけではないですか。ちょっとそういう、何といいますか、呼びつけ感というか、ちょっと私は相当、非常に違和感を覚えるのですけれども、いかなものでしょうか。

○大熊総務課長 そうですね。呼びつけという言葉で言われると、そういうふうに感じる

方もいらっしゃるのかもしれませんが、やはり全体に透明性を高めて、しっかり審査をしていくということが重要であるという考え方で、私ども、審査を進めておりますので、そこは事業者の方と審査会合の場などでコミュニケーションをとりながら、合理的な形で進めていく、合理的に、透明に、かつ、内容がしっかり審査できるように進めていくということだと思えます。

○記者 透明性を確保するのは、本当にそれはそのとおりだと思うのですが、たった1時間のためにわざわざ北海道から往復しなければならないような人も含めて、やらなるとめてやったらどうですかという感じがするのですけれども、その辺の段取りをしっかりとったほうがいいのではないですかという、そういう御提案でございました。ありがとうございます。

○司会 ほか、ございますでしょうか。よろしいですか。

それでは、本日のブリーフィングは以上としたいと思います。お疲れさまでした。

—了—